



報道機関各位

熊本大学

熊本大学 人文社会科学系国際共同研究拠点セミナー
ソーシャルジャスティスと若者によるドキュメンタリー
—若者の表現は社会問題に関する人々の意識をどのように変容しえるのか—
水俣・福島・米国ヴァージニアをつないで

ゲスト：福島県立相馬高校放送局員、米国イースタンメノナイト大学ムーア准教授

日頃より本学の教育研究活動につきまして、格段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、本学 人文社会科学系国際共同研究拠点主催の標題国際セミナーを開催する運びとなりました。

熊本大学では人文社会科学系国際共同研究拠点事業の一環として、水俣や福島などの環境災害後のコミュニティの葛藤や分断からの再生のために、福島と水俣をつなぐことによる両地域のエンパワーメントに紛争解決・平和構築学のアプローチで取り組む研究を行っています。

今回は、東日本大震災をめぐる作品「相馬高校から未来へ」で2013年度NHK杯全国放送コンテストにテレビドキュメント部門で全国一位を受賞した福島県立相馬高校放送局の教員と部員、また、米国イースタンメノナイト大学で環境汚染をめぐる二つの都市の物語の映像作品を学生と制作したパレット・ムーア准教授を講師に迎え、講演とパネルディスカッション、作品上映を水俣と熊本大学で行います。若者の表現が社会問題に関する人々の意識をどのように変容しえるのかを追究します。

本セミナーは、研究者のみならず、広く一般の方にもご参加いただきたく、事前の広報および当日の取材を、よろしく願いいたします。

記

熊本会場（メインシンポジウムと作品上映会を行います）

【日 時】平成27年1月7日（水）メインシンポ：14：00～17：00

作品セミナー：18：30～20：30

【場 所】熊本大学 黒髪キャンパス北地区 くすの木会館

（熊本市中央区黒髪2丁目39番1号）

水俣会場（作品上映会を行います）

【日 時】平成27年1月6日（火）18：30～20：30

【場 所】水俣市総合もやい直しセンター もやい館 会議室
（水俣市牧ノ内3-1）

2会場共通

【対 象】研究者、学生、一般

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

【お問い合わせ先】

熊本大学 大学院 社会文化科学研究科
准教授（紛争変容・平和構築学）

担当：石原 明子 TEL：070-5505-5019

aishi@kumamoto-u.ac.jp

人文社会科学系国際共同研究拠点 セミナー

ソーシャルジャスティスと

若者によるドキュメンタリー

—若者の表現は社会問題に関する人々の意識をどのように変容しえるのか

震災と原発事故。

私たちが、目をそむけようとした そのときも
彼女たちはずっと、向き合いつづけた
作りつづけた 伝えつづけた

きっと、
抱えきれないほど
たくさんのかなしみ、怒り、
不安を抱えながら。

彼女たちが、高校最後の作品として作った
それぞれの“今伝えたいこと”
新入生を迎え、生まれた新たな作品
——福島高校生のレンズを通してみる、震災。

これは、ウェストバージニアから、ウィスコンシン
のあなたへのラブレターなんだ。鉱山
開発で僕たちの川に、自然に、何が起きたの
か・・・。

——米国大学生のレンズを通してみる鉱山
開発「To Wisconsin With Love」



メインシンポジウム（上映会つき国際セミナー：日本語通訳付）

1月7日（水）午後2時から5時 熊本大学 くすの木会館

住所：熊本市中央区黒髪 2-40-1

電話番号：096-342-3995

2時 講演「ソーシャルジャスティスとメディアアーツ」

演者：Paulette Moore 氏（米国イースタンメノナイト大学）

3時 日米の若者による環境正義に関する作品紹介（解説付き）

4時半 日米制作指導教員パネルディスカッション

「若者によるドキュメンタリーの可能性」

（P.Moore 准教授×渡部義弘教諭、司会：熊本大学 石原明子）

福島の子者によるメディア作品セミナー

＜水俣＞ ※制作チームとムーア准教授の解説つき

1月6日（火）午後6時半から8時半

水俣市：もやい館 会議室

水俣市牧ノ内 3-1 0966-62-3120

＜熊本＞

※制作チームとムーア准教授の解説つき

1月7日（水）午後6時半～8時半

熊本市：熊本大学くすの木会館

作品紹介：

「見えぬ壁」（映像ドキュメント、25分） 福島県立相馬高校 作品

高校3年生、当時の私は友達と震災に関する話を話す事はなかった。それは、思い出させてしまったり、傷つけてしまうかもしれないからだ。さらに、福島県は被災の仕方が様々だ。相手がどういう状況なのか分からない。友人が現在どう思っているのか、もう向かい合う事は出来ているのか聞いてみたかった。これは私の周りの小さなコミュニティだけの事象ではなく多くの人が感じている難しさと思い、この番組を制作した。

「これから。」（短編ドラマ、17分） 福島県立相馬高校 作品

本作を制作したのは高校三年生の冬。私は卒業を目前に控えていた。今、震災から3年という月日が流れ、世は「震災」を忘れ始めている。震災による直接的な被害はほぼ収束している。しかし、未だ偏見や無知な部外者がいるのも事実だ。私達はそんな環境の中、3年間を「生きて」きた。誰しもが未来への漠然とした不安の芽が小さく根をはっていたあの中で、巣立ちを目前に控えたこれまでを振り返りある種の決別も含め、この作品を作った。未来は分からない、しかし未来は必ずやって来る。

「To Wisconsin With Love」（映像ドキュメント、44分） USA Eastern Mennonite University 作品

豊かな自然に恵まれたウェストバージニアの過去と現在の姿をとらえたカメラのレンズ……。鉄鋼発掘による環境汚染の脅威にさらされているウィスコンシンスペリオル湖流域の人々へのラブレター。

Paulette Moore 氏

米国イースタンメノナイト大学

准教授（メディアアーツと平和構築）

米国の紛争変容・平和構築の拠点の大学で、社会変革とメディア、ドキュメンタリーと語りフィルム、ソーシャルメディア、アートによる平和構築を教える。自身も、多くの映像作品を手がけ、1990年代前半には、日本でNHKなどのドキュメンタリー作品制作にもかかわる。

2014年には、イースタンメノナイト大学の学生と共に、開発による環境汚染の可能性にさらされているウィスコンシンのある地域に対して、鉱山開発による環境汚染を経験したウェストヴァージニアからメッセージを紡ぐ映像作品「To Wisconsin With Love」を制作。

福島県立相馬高校放送局

東京電力福島第一原発から北に約40キロの福島県沿岸部にある相馬市の県立高校で、部活動として映像作品やラジオ作品をつくる。震災後からの作品は、注目され、全国各地と海外で上映される。2013年に水俣や長崎を訪ねたときの経験を元に作った映像作品「相馬高校から未来へ」は、NHK杯全国放送コンテストのテレビドキュメント部門で全国一位を獲得する。彼らの作品は、原発災害後の様々な人間関係の葛藤をも変容させる力

主催：人文社会科学系 国際共同研究拠点
熊本大学大学院社会文化科学研究科
石原明子（紛争変容・平和構築学）

問合せ：熊本大学大学院先導機構

山田麻衣まで

maiya@kumamoto-u.ac.jp

096-342-2390